

特 253

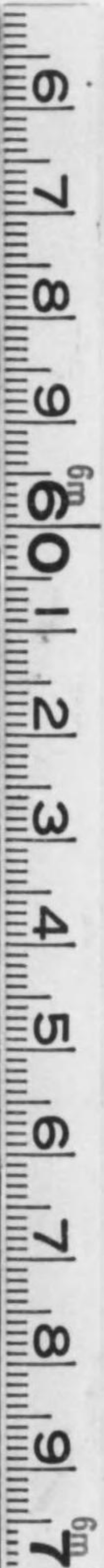
376

永井了吉先生 講述

明 朗 會 講 演 集 第 二 號

明 朗 會 本 部

始

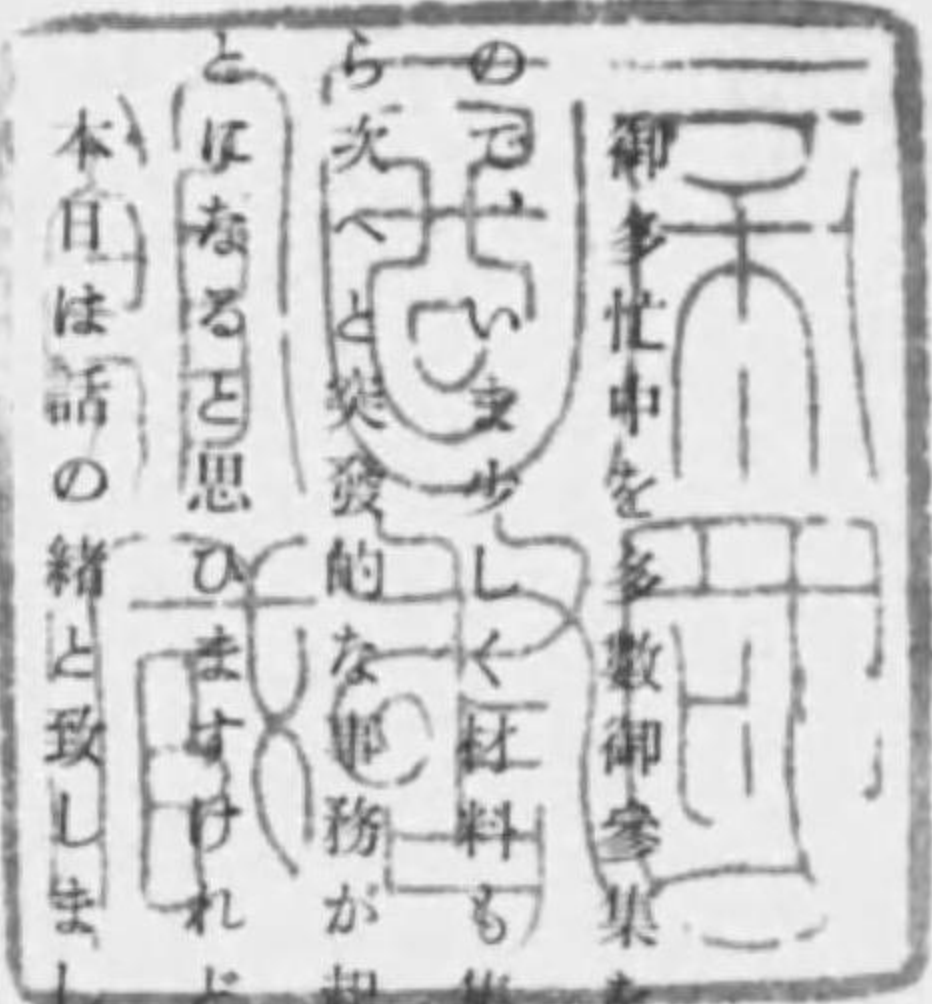


特253
376

明朗會講演集 第二號

英吉利及支那に對する吾人の觀察と日本主義經濟

昭和十二年六月十五日夜於橫濱市若尾ビル講堂



御多忙中を多數御參集を得まして厚く御禮を申し上げます。實は四五日前にお話がありました
の、いさしく材料も集めて系統立つたお話を申上げる積りで居つたのでありますが、次
ら次々と突發的な事務が起りまして、どうも十分纏つたお話は出来ませぬ。隨て又漫談的
とはなると思ひまされども、其點は豫めお許しを願ひたいと存じます。

本日は話の緒と致しまして大體英吉利及支那に對して日本人としては、どういふ風に之を
察したら宜しいかといふ點と日本主義經濟の主張はどう云ふものかと云ふ事に關しまして、一
應私の考を申上げたいと思ひます。

イギリス外交の基調

今回の英吉利皇帝の戴冠式に際しまして、英吉利では英吉利帝國會議といふものを開いて居



ります。此會議は英吉利本國及び其自治領全部を含めた代表者の會議である。さうして大英帝國の重要な根本國策を決定する會議であります。日英同盟を廢止しましたのは大正十二年でしたが、此際にもやはり此英吉利帝國會議の決議に依つて是が廢棄されたのであります。さういつたやうな重要な會議が開かれて居りますのですが、多分是は五月の末に閉會になつた筈ですが、其後の事は私能く存じませぬ。それで此英吉利帝國會議の重要な課題は、英吉利本國と自治領との經濟關係が其主なる課題であつたやうであります。新聞紙上で御承知の通りに、英吉利は歐洲政局に於けるリーダーシップを確保する爲に、軍備の大擴張を企圖して居ります。それは邦貨に換算致しますると五ヶ年に二百五十億圓の巨額に達すると言はれて居るのであります。さういつた毎年五十億圓にも達するやうな軍備の大擴張を實行しようとして居ります。其自治領としての軍費の負擔の問題、それから各自治領本來の國防の問題、それと英吉利本國の歐洲に於ける國防の問題、それ等の關係をどう處理して行くかといふ問題が課題の一つであらうと思ひます。それからもう一つは自治領と英吉利本國との貿易の關係、それをどうするかといふ問題であります。外にも澤山の課題があつたかも知れませぬが、私は此二點に付て特に觀察したいのであります。

御承知のやうに歐羅巴大戰は、工業國としての先進國である歐羅巴の諸國が戰爭に没頭して

居る間に、此大戰に参加しなかつた歐羅巴以外の諸國に於ける産業殊に工業を非常に發達させました。歐洲大戰迄は歐羅巴及び亞米利加は、殊に歐羅巴は世界の工業地帯であつて、世界の各殖民地から原料を輸入して、それを工業力に依つて商品化して、再び之を世界の市場に賣出して居つた。さういふやうに原料國と工業國とが持ちつ持たれつの關係に依つて、世界經濟といふものが出来上つて居つたのであります。所が其關係が歐羅巴大戰の爲に一變して、歐羅巴諸國が戰爭に没頭して居る間に、今迄は工業的には非常な後進國であつた、或は全然工業のなかつたやうな地方に於てすら、歐洲大戰の爲の軍需品の需要に刺戟せられて工業が勃興した。例へば我が日本の國の如きも歐洲大戰の機會に、非常な工業的の躍進をして大小の産業が起つた。さうしてさういふやうな現象は日本だけでなくて、世界の各方面に於て現はれたのであります。英吉利帝國の版圖内に於ても同様の現象が現はれまして、歐洲大戰迄は英吉利本國に對する原料の供給地帯であつた。且つ英吉利本國で生産された工業製品の販賣市場であつた所の英吉利の自治領は、歐洲大戰以後といふものは自らの工業、産業が著しく發達致しまして、寧ろ英吉利本國の工業と對立競争の立場になつて來た、是即ち生産過剰で經濟方面の學者が言ひますやうに、經濟恐慌が起る共通の原因である。さういふやうな事情の下に、英國は其尨大な版圖内に於てすら、非常な經濟的な苦惱に陥るやうになつたのであります。それ迄は英吉利

の自治領は安心の出来る英吉利工業製品の販賣市場であつた。それが自治領の工業の發達の爲めに不安となつた許りでなく世界の他の列國が工業的に發達した爲に、其製品までが英吉利の自治領に流れ込んで来た。さうして英吉利本國の工業製品と、日本、亞米利加其他の國々の工業製品とが市場に於て相見え相争はなければならぬ状態になつたのであります。是は英吉利の工業に取りまして非常な重大な問題である。御承知のやうに英吉利の本國はゴルフのリンクが大變多くて田畑が少ないので、農産物等の食糧品といふ物は極く生産が少ないから、殆ど之を海外の殖民地から仰いで居る状態であります。それで英吉利の經濟は根本的には商業及び工業に依つて成立つて居る。原料國乃至殖民地に對して製品を賣付け、其代金を以つて食料及原料を買入れる、此循環關係に依つてのみ英吉利の經濟といふものは成立つて居つた。所が歐洲大戰以後英吉利の其經濟の建前である圓滿な循環的關係が崩壊して來ました。是は英吉利に取つて根本的な大きな悩みであります。恐らく此關係は今後とも益々發展して行くものと考へられます。日本のみならず、獨逸、伊太利、チエツコ其他の國々、例へば最近に於ては支那ですら既に工業は著しい發展をして居る。さういふやうに殆ど全世界を覆うて居つた所の英吉利の工業製産品の市場であつた所の地方々々が、他の國々の工業製産品の爲の市場と變りつゝあるといふことは、此大勢は決して今日に於て停止し得るものでなく、將來も益々深刻な問題に

なつて行つて、是が大英帝國崩壊の根本的原因となるのではないかと思ふのであります。

今から約五年前にオッタワ會議で、オッタワ協定といふものが結ばれました。是は要するに英吉利の自治領に於ては、同じ種類の商品ならば英吉利本國の商品を買ふ、さうして英吉利以外の國々からは其商品を輸入しない。詰り大英帝國ブロックといふものを結成した譯であります。それは只今申上げましたやうな英吉利經濟の本領である所の建前を脅かす所の状態に對して、英吉利自ら防衛せんが爲に、自治領と英吉利本國との工業及び原料、生産及び販賣市場等の關係を堅く結合する爲の協定であつたのであります。斯くして此オッタワ協定に依つて自治領と本國との間の關係は、英吉利以外の國との關係から別扱ひにすることは出来たのでありますけれども、今度は前に述べました様に自治領自身と英吉利本國との直接の關係に於て破綻が生じて來た。是は要するに自治領自身に工業が發達して來た。即ち加奈陀、濠洲、ニュージランド及び南阿といふやうな地方に於て、其地方独自の工業が發達して參りまして、必しも英吉利本國の工業に俟たなければならぬといふ關係が稀薄になつて來たのであります。さう致しまするといふと、英吉利本國は自らの生活は本國のみの土地に依つて經濟を賄つて行かなければならない。食糧乃至其他の原料を殖民地から買入れやうとする。或る自治領から買入れやうとすれば、其代金を支拂はなければならぬ。其代金を獲得する爲にはやはり何物かを餘所へ賣

らなければならぬ。英吉利の本國で生産せられたる商品を自治領に賣つて、其代金で以て英吉利本國の食糧乃至原料を買入れなければならぬといふ關係にあるのでありますからして、英吉利本國の工業製産品が其販路を失ふ時には、英吉利本國は食糧及び其他の原料を買入れる資金に窮する譯であります。尤も外國へ投資して居りますから其利潤収入がありますけれどもそれだけに頼ると云ふ事は誠に心細い事であります。さういふ關係でありますからして、現在に於ては大英帝國と雖も其本國と自治領との間の關係は經濟的に必しも緊密に結合し得る關係にあるのではない。さういふ關係は無くなりつゝあるのであります。寧ろ場合に依りますると、英吉利本國の工業と各自治領に於ける工業とが、相對立して同じ市場に於て相闘はなければならぬといふ状態になつて來たのであります。此英吉利の經濟的の苦惱が各方面に色々な政治的現象として現はれて來ました。例へば日印協定、或は日蘭會商等、英吉利は今迄自國の商品に依つて獨占して居つた市場を飽迄保持する爲に、有ゆる政治的手段或は外交的手段を盡しまし、自國の産業防衛に狂奔して居る状態である。さういふ状態でありますからして、日本が現在のやうな低廉にして而も優良なる商品を海外にどん／＼輸出する状態の下に在る限りは、英吉利と日本とは世界の經濟市場に於て到底相容れない關係にあるのであります。随つて英吉利と日本との關係は政治的にも、或は一轉すれば軍事的にも當然相對立する關係にある。是は

大原則として、將來吾々の雙肩にのし懸つて來る所の、日本がいつか解決をしなければならぬ所の課題であると思ふのであります。

所が最近是我國に於て外交界及び其他言論界に於ても親英主義が非常に唱へられる。日英同盟の復活であるとか、或は英吉利皇帝戴冠式に際して日本の皇族がお出ましになつて、日英親善を促進される。或は吉田大使が日英親善の爲に非常な努力をして居るといふやうなことが頻りに傳へられるのであります。此點は要するに一時的政略でありまして、日本が露西亞といふ大敵を北に控へて居る限り、露西亞に加ふるに英吉利迄敵に廻しては國際政局の上に於て日本が不利であるといふ一時的條件の爲に、對英親善政策を行つて居るものと解釋するのであります。若し日本が露西亞を叩き潰すことが出來たといふ場合に英吉利はどう考へるか、日本が北に恐るべき何物も無くなつた場合には、日本としては最早世界の何物にも遠慮することなく英國と世界の舞臺に於て正面衝突をして一向差支へない。さういふ状態になりますので、其關係は英吉利も知つて居る。でありますからして英吉利は日本と露西亞との間に事が起るやうな場合には決して日本を授けるやうなことはしない。是は當然露西亞を授ける。即ち日本が露西亞を完全に叩き潰すことが出来る或は極東から露西亞の武力を撤廢させることに成功した場合、簡単に言へば日本が對露關係に於て何等の脅威を受けなくなつた場合には、今度は英吉利自身

が日本の脅威を感じなければならぬ関係になるのであります。随つて日本が露西亞との關係に於て英吉利を頼りにするといふことは、夫れ自體實は意味がないのであります。私共は若し現在の政府の外交方針が斯る意味に於ける親英政策であるとするならば、洵に以て愚劣極まるものであると考へるのであります。然らばどうしたら宜いかといふ點になりますが、是は固より露西亞に對しては、日本は日本独自の力に於て對抗し得る或は對抗すべき有ゆる努力を拂はなければならぬ。それ以外に日本が將來是以上に發展する途はないのであります。外國の力を借りて露西亞と對抗するといふ考は、今日直に放棄しなければならぬものであります。併ながら特に英吉利を今敵に廻はす必要はないかも知れない。其點は要するに日本は日本独自の力に於て露西亞に對抗し得る、或は露西亞の勢力を東洋から驅逐し得るといふ確信を得る迄、吾々は有ゆる努力をしなければならぬ。例へば滿洲北支の經濟開發等はかゝる意味に於て正に緊要なる國策であるのであります。さうして其事自身が即ち日本が英吉利に對して最も強き立場に立ち得る唯一の道であると信するのであります。外交關係はさういふ關係にあると思ひます。それからは少し話は戻りますが、私共は英吉利の世界政策といふものを一應反省して見る必要があると思ふのであります。十五世紀の末葉に喜望峰の廻航が成功した。或は新大陸の發見も殆ど同時に出來、それに依つて海外殖民事業が一時に勃興した。最初に葡萄牙、西班牙、

和蘭、佛蘭西、英吉利といふやうな順序で東洋侵略の白人勢力といふものが膨洩として迫つて來たのであります。其間に於て徹底的の政策を執つたのが、英吉利である。御承知の通り英吉利の最初の世界政策といふものは海賊政策である。先進國である所の葡萄牙或は西班牙等の貿易船が印度貿易に従事して寶物を滿載して歸つて來る所を捕へて之を略奪すると云ふやうな海賊を明瞭に業務とする所の會社を拵へて、さうして白晝堂々と亞細亞侵略をやつて居つたのであります。是等を見るといふと英吉利の世界政策の根柢は重商主義、通商貿易である。最初は海賊であります。いつ迄も海賊はやつて居られないので、徐々にそれが合理的の海外經略になつて來た。其形が通商貿易と大海軍主義である。詰り東洋各地から有ゆる財寶を最も低廉なる代償に依つて獲得する重商主義がそれであり。それに依つて東洋を初め濠洲、阿弗利加、北亞米利加各方面に殖民地を設定した。さういふ風に英吉利の世界政策といふものは飽迄略奪主義である。さうして其通商貿易に害になるもの、邪魔になるものは容赦なく海軍の力に依つて撃滅した。それで到る處でさういつたやうな意味の通商貿易を保護する意味に於ける海戦が行はれたのであります。即ち一番最初は自ら海賊となつて商船を略奪したのであります。其次には合法的な通商貿易をやつた。而もそれを武力としての海軍で保護した。海賊ではありませぬが、武力を以て其通商貿易を強行したのであります。是が英吉利のやり方でありまして

今日に於ても其方針は根本精神に於ては變つて居ない。元々此白人の東洋侵略、世界經略の歴史から見ますと、大體に於て二つの傾向があつた。第一の傾向は完全なる略奪主義であります。十九世紀から最近になりましては寧ろ其土地を開拓する殖民地を開拓して、其處に生産力を育成して、さうして更にそれを搾取するといふ形に變つたのであります。けれども其通商貿易主義たるに於て何等の變りがないのであります。

それで私共は今滿洲問題、支那問題等に關聯しまして、既に目の前に現はれて來るのは英吉利の勢力である。此英吉利の勢力といふものの内容及び性質をはつきり間違ひなく擱んで置かないといふと、日本の大陸政策なり、滿洲問題なり對支問題なりは、其ポイントを失ふ處が十分あるのであります。例へば對支問題、吾々が支那の問題を扱ふ場合に、どういふ誤謬に陥つて居るかといふと、先づ第一に是は外務、陸軍共に陥つて居る誤りであると思ふのであります。それは支那の政府、例へば南京政府或は北支及西南に於ける地方政權、軍閥、さういふものを相手にして外交交渉をやつて居るといふことは、是はそれも一面には必要であるけれども、そのみに終始して居るといふことは非常な見當違ひである。英國は其通りのことをやつて居る。英吉利は如何なる場合でも殖民地を喰物にするといふこと、通商貿易に依つて吸上げるといふこと以外には何も考へて居ない。でありますからして殖民の有力者を捉へて味方にして土

地の人民を抑へ付けければよろしい。若し日本が英吉利と同じやうな政策を以て、對支問題、南洋政策、其他の海外政策に臨んだ場合には、是は日本は完全に英吉利と同一の世界政策を持つといふことになるのであります。で例へば幣原外交といふものはどういふものであるかといひますと、幣原外交は英吉利の世界政策に眞似て、日本も亦英吉利の世界政策、通商貿易政策に便乗して、多少なりとも其分け前を頂戴しようといふことに結果はなるのであります。所謂支那に對する國際協調主義、或は四國借款團といふのは要するに歐米諸國の對支借款に日本も加はつて、支那に對して經濟開發をやるといふことで、其内容は歐米の對支政策、殖民地略奪主義と全く其質を同じくして初めて出来ることでもあります。而して其結果はどうなるかと言へば、是は明に歐米勢力を支那の經濟社會に引入れることであつて、資本力の薄弱な、或は經濟力の薄弱な日本が歐米諸國と相伍して、支那大陸に進出を圖つた場合にどういふ結果になるかといふことは火を賭るより瞭かであります。支那分割、東洋禍亂の因は當然其處に起るのであつて、吾々は絶對に是に賛成することは出来ない。若し日本が大陸政策を行はうとするならば、英吉利其他の歐米各國が亞細亞の殖民地に對して今迄執つて居つた政策と根本的に其質を異にした所の大體政策なり、對外政策を採用しなければいけないものと考へるのであります。所が現在の狀勢から見ますといふと、兎角日本の今迄の當局の考へ方といふものは、歐米列強に

追隨して遂には大陸に於ける世界的禍亂の禍根をそこに植付けることになるやうに思はれてならないのであります。

一一二

支那問題の要點

今國內には現状維持派と現状打破派の對立があると言ひますけれども、此現状維持派の方面の意見といふものは先程申上げました列國と協調して、搾取の態度を以て大陸に臨むといふ方針に兎角引摺られて居るのであります。歴代の日本の軍部の政策は悉く之に反對して居る。併ながら軍部が是等の方針に反對した理由は、必しも日本の外地政策の本質的自覺に因るかどかは是は別問題であります。是は軍事的に見て、只今申上げましたやうに列國と共に大陸政策を行つた場合には、支那分割の端緒を開き、東洋に世界列強の勢力の角逐場としての第二のバルカンを出現せしめる處があるといふ見地から、有ゆる列強との共同政策に反對して來たのではないかと思ふのであります。日露戦争以後、日露條約が締結された後で、例のハリマン事件といふのがありますが、是は既に御承知のことと思ひますけれども、一寸申上げますと、日露講和談判で露西亞は日本に一文も金を出さぬ、是には一つの底意があつたやうに思はれる。南滿洲鐵道は日本に譲渡するが金は一文もやらぬといふ。所が當時の滿鐵の状態といふものは、

もう無茶苦茶であつた。之を立派な營業線として運用する爲には、大體五千萬圓位の金はどうしても要るといふことは、もう分り切つて居たのであります。日本は戦争の後を承けて全く資金が涸渇して居るから到底さういふ金はないといふことを見越して居る。そこで亞米利加のハリマンといふ人が、後から手を出して其金は此方から出してやるといつて來た。是は即ち亞米利加の滿洲奪取計畫であつたのであります。さういふやうに陸軍では考へて居る。そこで日本の大陸政策に付ては、日本の外地或は對外政策の本質上の問題よりも國防上の問題、軍事上の必要から列強との協調を否認して來たのであります。で亞米利加としては世界列強の中で東洋に自己の勢力がないのは亞米利加だけであるから、何とかして東洋の一廓に自己の勢力範圍を設定しようといふ希望を持つて居て、其對象となつたのが日露講和談判を機會として現はれた滿洲で、亞米利加が之を奪はうとして其計畫がハリマンの計畫となつて現はれたのであります。日本も遂に其手に乗せられて桂總理大臣はハリマンと假契約を結んだ。所がハリマンが亞米利加に歸る前に、小村壽太郎が講和談判から歸つて來て其話を聞いて、それは大變だといふので電報で以て其假協定を破棄した。それが爲に僅に一週間の間に滿洲の運命が決められたのであつて、是は實に重大問題であつた。さういふやうに日本の外地政策、大陸政策といふものは本質的に原則が確定して居つたのではなく、寧ろ國防上の、或る軍事上の必要から其都度最も適

一一三

當と思はれる方針を採つたのだらうと思ふのであります。日露戦争以後は英吉利、亞米利加、佛蘭西、獨逸此四國借款團が頻りに日本を誘惑して一緒に滿洲經營をやらうといふことを言つて来て居る。其際に日本の態度はどうかといふと、寧ろ露西亞と提携して之に反對して居る。英米獨佛の滿洲に對する總ての働き掛けを日本は露西亞と提携して之を排除したといふのが事實であります。さういふやうに日本の對外政策といふものは本質的な原則を持つて居なかつたのではないかと思ふのであります。

然るに今日に於て吾々が此滿洲問題を、或は北支問題、支那問題を取上げる場合には、今度は否應なしに日本の對外政策の本質的決定を要求されて居る。其根本的な矛盾は昨年行はれました支那の幣制改革に於て立派に現はれて居ります。丁度其當時私は天津に居りましたが、あのリースロスの幣制改革といふものは完全なる英吉利金融支配が支那經濟の上に樹立されたといふことであります。此時にも日本は敢然として之に反對することが出来なかつた。賛成はしなかつたけれども反對は出来なかつた。あれは成功しないだらうと日本の金融家は冷眼視して居つたのであります。今日に於ては立派に成功して了つた。其當時北支に於てはやはり南京に於ける交通銀行、中央銀行、中國銀行の三つの銀行から出す貨幣を法定貨幣として、その不換紙幣制度を確立した。それ迄は北支方面では現銀が流通して居つた、例の元大洋といふの

がそれであるが、其銀貨の流通を禁じまして、總て紙幣で以てやりました。是は日本としては英吉利の對支金融政策と對立して、もう少ししつかりやつたならば、此幣制改革を北支に及ぼさないやうにやる方法は幾らもあつたのであります。所がそれに對して明確なる態度を取らなかつた。さうして賛成しないで文句ばかり言つて居る。當時はさういふ有様で新しい幣制を強いるのでありますから、紙幣に對する信用が下落して、財界は非常に動搖した。若し其時に日本が朝鮮銀行なり何なり適當な金融機關を通じて、北支に日本の經濟力を根據とした所の金融制度を採つたならば、それは立派に成立つたのであります。所が其舉に出づることなく漫然として看過して了つた。さうして北支方面にありました約七千萬元の現銀といふものは悉く引上げられて了つた。最初の内は宋哲元や韓復榘など北支の軍閥は日本に對する氣兼ねから、其現銀の持出しを抑へて居つたのであります。逐次是が撤出されて殆ど南京政府に持つて行かれた。さうして南京政府は其全國から集めた銀を更に亞米利加に積出して、亞米利加からの借款を成就した。そこに又英吉利と亞米利加との對支金融政策の衝突もあつたやうですが、實は話し合がすんで置つたらしい。要するにそれ等の操作が結局英吉利の支那に對する金融支配を確定したのであります。さういふ際にも日本は明かな政策に出ることが出来ない。さういふ問題になると全くしどろもどろなのであります。でありますからして日本は此外地政策、對外政策に關

しては、今日はどうしても明かなはつきりした政策を採らなければならぬといふ状態になつて居るのであります。

然らば日本の對外政策の原則は何であるかと言ひますると、是は通商貿易主義ではない、詰り通商貿易に依つて利益を擧げるのではなく、外地を開拓して、生産力のない土地に生産を興すことである。さうして其新しい生産に依つて彼我共に其經濟的成果の恩典に與かる共存共榮の實を擧げるといふのが、吾々の目的であると思ふのであります。即ち外地を開拓して新しい生産力を其處に育成して、其土地の人民にも幸福を與へ、又土地の狭い日本としても其間に經濟的關係を打建て、それに依つてお互の經濟生活を維持して行くといふことに目的はあるだらうと思ふ。固よりそれ以外にも精神的の問題、思想上の問題、宗教上の問題等も澤山あると思ひますけれども其點は別の問題と致しまして、經濟的にはどうしても日本の外地政策は外地を開拓して生産を興して、さうして彼我共に生きるといふことに盡きるであらうと思ひます。然し此方針は現在の經濟機構其まゝでは出來ないのであります。

現在の如く戰爭になる前の生産力の擴充といふことは、是は戦ひが目的であります。故に一朝戰爭といふ危険がなくなると忽ち生産過剰といふことになる。生産力があり過ぎて商品が出來過ぎる。それが爲に物價が下落して經濟大恐慌を起すといふことは、是は經濟書で皆さん御

御承知であらうと思ふ。所がさういふ關係であるとするならば、若し外地生産力を育成した場合には、經濟恐慌が餘計酷くなるではないか、さういふ政策は一朝戰爭の危機が無くなつた場合に、經濟恐慌の重大なる原因となつて、それが爲に再び經濟破綻が来るから夫はウツカリやれぬといふのであります。さうなると愈々此問題は經濟上の根本的な變革を豫想せねばならぬ。或はもつと端的に言へば根本的な經濟改革をやらねばならぬといふことの原因になるのであります。詰り色々のことを申上げましたけれども、日本の外交政策、或は對外政策と經濟問題とは實は切つても切れない關係があるので、國內に於て國民生活安定の問題から來る經濟機構の改革問題は、必しもそれだけの問題に止まらないで、日本の對外政策、殖民政策の原則に迄、其影響を及ぼすものである。さういふ風に考へて居ります。

少し話が固くなりましたから一應こゝで方面を變へて支那の社會、殊に支那の農村部落のこゝなどに付きました一寸お話を申上げませう。御承知でせうが一昨年北支方面に農民自治運動といふものが起つた。此運動は農村及び都市に於ける第三乃至第四階級の運動ではない。是は中堅階級の運動です。其親玉が一寸した町の總商會の會長——丁度日本の商業會議所の會頭のやうな地方の有力者で、商賣をやつて居る人です。さういふ人が先頭に起つて、農民が一齊に蜂起して、當時の南京政府の政權に反抗した。其結果冀察政權が生れた。冀東政權も固より其

結果生れたのでありますが、其以前に塘沽停戦協定といふものがある。是は我軍の熱河攻略から北支に進んだ時に何應欽が逃出した。あの時の北支停戦協定ですが、そこに大きな重點があるのであります。冀東政府の基礎はそこにあるのでありますけれども、此冀察政權とか冀東政權の出現する直接の原因になつたものは、此北支に於ける農民自治運動なんです。此農民自治運動の内容を見ますと、先程お話ししたやうに南京政府は英吉利の金融支配勢力を背景として、支那の傳統的な農村社會に壓迫を加へて來た、それに對する支那の農村社會の反撃なんです。支那の農村社會はあちらへお出でになつた方は御存じでせうが、大體三十か五十、多くて百の家族が一つの部落になつて居て、外に障壁を廻らして其中に入つて居る、大家族制度です。大體一つの部落は全部姓は同じです。詰り同族部落です。さういふ部落が澤山ありますが、其部落々々がお互に連絡して地方部落聯合體を作つて居る。さうして其部落聯合體が又他の部落聯合體と聯合して、其上の大きな聯合體を作つて居る。詰り自治社會を成して居る。彼等は政府の力、法律の力を借りないで、大家族制度に依り徳義、道義心に依つて自治的の社會を作つて居るのであります。決して是は法律の力や政府の力に依つて出來たものではない。彼等自らの自治能力に依つて出來て居る立派な自治社會を持つて居るのであります。さうして其貨幣制度のやうな經濟制度も、長い傳統の間に自らそこに樹立されたものであつて、經濟上の取引關係

なども非常に徳義を重んじて、日本に於けるやうな商法であるとか民法であるとか、さういふやうな法律上の制裁規定がなくして、立派に經濟活動を行つて居る。さういふ社會であります。所謂「鼓腹擊壤、帝力吾ニ於テ何カアラムヤ」といふやうな彼等の人生觀、世界觀は其處から生れて來るのであります。そこへ以て來て近代國家を建設するとか何とか體裁の好いことを言うて、南京政府といふ一種の合名會社が、私の金融機關を英吉利の背景に依つて作つてさうして支那民衆の上に近代資本主義の形態に於て、搾取の形に於て臨んで來たといふのが、現在に於ける支那の南京政府、蔣介石政權の出現に依る所の状態なのであります。南京政府は決して支那の國民の政府ではない。是は蔣介石、宋子文一族の合名會社に過ぎないのであつて、是が恰も全支那の中央政府であるが如き形を以て、支那民衆を喰物にして居るといふのが本當の状態です。現在に於ては全支那に此自治社會の擁護運動が將に起らんとして居るのであります。最も正しい日本の對支政策といふものは此傳統ある支那の自治社會を日本の力に依つて保護してやるといふことでなければならぬ。現在の蔣介石であるとか、地方軍閥であるとか、此道徳、道義に依つて出來て居る所の支那の自治社會を搾取せんとする立場にあるさういふやうな政權、政府といふものは、寧ろ日本の力によつて之を取拂つてやるのが、本當の意味の日本の對支政策でなければならぬと考へるのであります。

是は支那の自治社會が如何に弾力性があるかといふことの實例であります。一昨年黄河の洪水があつた。是は堤防が河南から河北に入つた所の近くで二個所決潰した爲であります。堤防を狭く築く爲に河の底が段々上つて来て、普通の耕地より河の方が一丈も上つて居る。それが氾濫するから大變です。黄河は昔から三百年目には必ず氾濫して居るんです。で一昨年、も此堤防の決潰から黄河の水が滔々と流れて、日本の約四國に相當する面積が完全に水の底に潜つた。非常な損害です。而もあの地方の地勢からいつて水は中々引かない。土地が平で水が流れない。今日でもまだ引き切らないといふ話であります。其爲に約二百萬人の人間が完全に住居と其土地を失つた。尤も水は一週にどつと殖えて来た譯ではなく段々と殖えて来る。だから人は逃げる邊は十分にある。隨て死人は尠い。死んだ人は堤防の決潰個所で僅か二三十人位死んだだけである。併ながら其あとの二百萬人が立所に路頭に迷つた。若し日本で二百萬人の人間が突如として家と土地を失つたならば、政府はどうするか、其黄河の洪水に依る所の二百萬人の罹災民を然らばどうして片付けたかといふと、是は山東省一省で綺麗に片付けて了つた。山東省には僅か百二十八？の縣がある。其各縣には又澤山の部落がございますが、其部落に二百萬人の罹災民を少し宛分けて皆預けたのであります。是は大家族制度の齎らす所の弾力であつて、完全な個人主義である歐米などでは一寸考へられない。亞米加などでは喰へなくな

つたならば、もう街頭に屍を曝す以外に方法はない。假令兄弟であつても中々面倒を見て呉れないといふ個人主義ださうであります。支那に於ては此黄河の洪水に際して、二百萬人の罹災民を僅か山東省一省の人民が悉く分けて養つた。五十戸、三十戸といふ小さい部落には一家族或は二家族といふやうに預ける。さうすると厭な顔もしないで引受ける。さうして一緒に同じやうな生活をして居る。さういふやうな社會制度であつて政府の御厄介にならぬ。是は勿論山東省の韓復榘の政府が面倒は見て居りますけれども、やはり人民の間に水災救済委員會といふものが出来て、それが全部やつて居る。さういふやうに支那の民衆といふものは立派な自治社會を持つて居る。自分だけの力で以てさういふ大きな災害に對して迄も處理する能力を持つて居る。それだけの道徳を持つて居るのであります。之を見ても日本としては支那に對して單なる武力を以て脅したり、或は支那の民衆を壓迫して居る所の南京政府であるとか、其他の軍閥と提携するといふことは根本的の誤りであつて、是等の自治社會を構成して居る所の支那の民衆の上にし懸つて居る所の政權軍閥といふものを日本の武力に依つて一掃してやるのが寧ろ日本の大陸政策の根本ではないか、さうして彼等の自治社會と日本とが直接提携することに依つて、彼も生き我も生きることが出来るといふことを信するのであります。例へば農事の改良に致しましても、現在は北支方面では毎年旱魃々々といつて、畑などは麥は一尺位しか育つ

て居ない、實も十か十五しか成らぬ、さういふ哀れな作物の状態で、大風でも吹くと麥は根こそぎ飛ばされて了つて、あとは砂漠のやうになるといふ酷い早魃であります。それではどうすることも出来ないかといふと、さうぢやない、早魃々々といひながらステツキを突込んで見ると、下に地下水がある。非常に酷い所でも二十尺も掘れば必ず水がある。だから地下水には不自由しない。さういふ状態でありながら早魃で以て非常な苦しみを受けて居るといふことは、農民が如何に無智であるかを語るものであります。彼等は又方法はあつてもそれを實行するだけの氣力を缺いて居る。長年の間の苛斂誅求に依つて、もうすつかりへたばつて居る。若し彼等に對して日本の農業技術が適當に之を援助することが出来たならば、其農産物の收穫率といふものは立所に五〇%や六〇%増すことは何でもない。是は即ち土地の開拓であつて、此隣邦の荒廢に歸した所の農村を少しでも日本の手に依つて、農事改良をして更生せしめることが出来たならば、是は彼等の自治的社會といふものを非常に援けることになる。さうして彼が棉花なら棉花を作れば我はそれを買つてやつて、さうして日本の紡績の原料にすれば、何も亞米利加から棉を買ふ必要はないのであります。さういふやうな具體的な大陸政策の方法は幾らもある。さういふことをやる爲には南京政府の介入を必要としない。又地方の軍閥などは全然無用の長物である。彼等は自治農村部落或は總商會、さういふ立派な代表機關を持つて居りますか

らして、此彼等の自治機關と日本とが直接交渉をすれば、どんな話でも出来る。軍閥や統督辦も要らなければ、韓復榘や蔣介石や張郡も要らぬ。そんな者は一切無用である。然るに拘らずそれ等を對象として現在の外交を行つて居るといふことは、今迄の日本の支配者、政府、指導階級が本當の意味の日本の大陸政策の原則を知らない。何等反省がないといふ點に歸着するのであります。

さういふやうな譯でありまして現在の日本は内外共に總て誤謬に陥つて居る。對外問題も對内問題も全く同じ問題の爲に苦んで居る。どうしても是は人間を迷へなければならぬ。現在の日本の危局を齎した先輩諸君、現在の日本の支配者の立場に立つて居る人は自ら之を打開することが出来なければ、立所に引退つて貰はなければならぬといふやうな状態ではないかと思ふ。殊に最近に於ける物價騰貴の爲に豫算は昨年と同じ豫算であつても二億や三億は殖える。其外に軍事豫算が殖えるし、社會政策をやるといふやうなことで、恐らく三十三億は當然超へる。罷り間違ふと三十五億圓にも上るであらう。若しさういふ豫算が決定されるやうなことになるれば更に物價が上がる。本年の末には悪くするといふと物價が倍にもなりはしないか。餘りさういふことを申すと、是は社會不安を醸成する言動だといつてやられますが、さういふ危険は十分ありさうです。内にはさういふ社會不安の深刻の要因を藏して居り、外部には日本のさうい

ふ國內事情を能く知つて居る南京政府が、日本は今社會問題で以て國內が混亂する。今の中に、此機會に於て突けといふので、一方には英吉利の力を頼り、一方に於ては露西亞の力で日本を牽制しようと、此兩國の力を活用して、さうして北支方面に對しては百尺竿頭一步を進めて、痛烈な政策に出て来るんぢやないかと思はれるのであります。さういふ點を考へますと、洵に愈々本當の意味の非常時が迫つて來たやうに思はれます。

日本主義經濟の大様

それから此前に經濟問題で日本主義の陣營に於ては如何なる經濟改革案があるかといふ點に付て、簡単に申上げたのでありますが、本日又それを繰返して言うたら宜いだらうといふお話がありましたので、もう一回簡単に申上げて見たいと思ひます。先づ理論よりも事實から先に申上げたいと存じます。

只今申上げたやうに物價の高騰といふことは、其原因が澤山あると思ひますが、其中の一つの重要な原因としては爲替の下落といふことが、大きな原因を成して居ります。詰り圓の崩落です。日本の圓といふ紙幣が安くなつて外國の貨幣との交換率が悪くなつた。即ち圓爲替の下落といふことでありますが、此物價騰貴を抑制する爲にはどうしたら宜いかといふことの中に

は、當然此爲替をどうしたら宜いかといふことが含まれて來る譯であります。此爲替といふものは私は商賣人ではないから能く知りませぬけれども、まあ常識的には皆さんも既に御承知の通りと思ひますが、爲替といふものは丁度外國から日本の國の中へ突込んだ挺のやうなものである。爲替相場といふものは何處で決定せられるかといふと、國際市場である。詰り日本の國に流通して居る所の圓の値段は國際市場に於て決定される。日本の國內の經濟市場、經濟狀況が、日本の國外の原因に依つて變更される、攪亂されるのであります。詰り國際經濟が日本の國內經濟を支配して居る形である。日本の國內經濟が國際經濟に依存して居るといふ形になつて居る。さういふ意味で此爲替といふものは日本の國內經濟といふものの中に挺を突込んで居るやうなものである。だから此爲替を適當に操作するならば、それに依つて日本の國內に於ける經濟狀況といふものは攪亂される。さういふやうに爲替といふものは國內經濟をして國際經濟に依存せしむる關聯紐帶である。私の言ふ所は是は色々考へた末、さうなるのであります。圓爲替といふものを廢止しろ、爲替なんか廢めて了へと言ふのであります。圓爲替といふものがあるから、それが上つたり下つたりして、それに依つて内地の物價が騰落する。であるから國際經濟に依つて國內經濟を攪亂されるのを阻止せんとするならば、圓爲替を廢止すれば宜い。いや圓爲替を廢止したならば貿易は出來ないぢやないかといふお話があるかも知れませ

ぬが、是は現在獨逸でさうやつて居るので、マルク相場といふものは國際相場には實質上ない。それは有り得ない、それと同じやうに何も外國と商賣をやるのに圓爲替で商賣をする必要はない。相手の國の貨幣で以て取引をする。それには日本から輸出した物の代金を外國の貨幣に換へて置けば宜い。要するにどうしてもやらなければならぬことは此圓爲替を事實上廢止してしまふことである。さうすれば國際經濟が容易に國內經濟を攪亂するといふことは無くなつて來る譯です。併ながら此圓爲替を廢止して相手國の貨幣に依つて貿易をやるといふことは、是は大革命である。けれども是は當然やらなければならぬ。其結果はどうなるかといふと、貿易機能といふものは、やはり國家自體に具足した國家の機能になつて來る。之を人間の機能に譬へて言ふならば、排泄の作用、呼吸の作用である。さういふやうに是は國家自身に具足した働きになつて來る。現在は國內の商人が、自由自在に外國の一商人と貿易取引をやることが出来る。詰り早い話が吾々の體内の一つの細胞が勝手に外界のものと取引をやつて居るやうなものである。さういふやうな状態が國家の經濟的存立を危くすることは當然である。さういふ意味からいつて、此國際經濟と國內經濟とを遮斷して、國內經濟は國家の意思に依つて左右し得るやうに編成するといふことは根本的に必要であると思ふ。

さういふ點から言ひますと、今日迄の考へ方では、國家には財政があるが經濟はない。即

ち國家には租税其他の收入に依つて歳入といふものがあつて、豫め豫算を組んで歳出を行ふといふ財政がある。併ながら經濟はないといふのが今日迄の考へ方であります。所が今度は國家自身にも經濟があるといふことになつて來ると思ふのであります。國家の經濟は單に政府の歳入歳出だけの問題ではなくして、國の内の有ゆる經濟活動を包含したもので、其經濟現象は單なる自然現象、或は社會現象としての意義ではなくて、それが即ち國家の經濟である。國家自體の經濟現象である。言換へれば是は國體經濟といふことも出来る。詰り經濟は今日迄の考のやうに單に社會的又は國際的のものではない。國內の經濟といふものはそれは國家の經濟である。恰も人間の身體の内部に於ける生理的現象が外界と別箇の意義を有つて居る如く、國の内の有ゆる經濟現象といふものは、是は即ち國の經濟である。國體の經濟現象である。國を人間の身體と考へた場合に於て是は身體の生理現象の如く國體の經濟現象であるといふ風に考へ直さなければならぬのであります。さういふ意味から言つて、國際經濟と國內經濟とは一應遮斷することが必要である。併ながら國內經濟と國際經濟を遮斷するといふことは、絶対に遮斷することではない。國際經濟との關係は依然として繼續して行くのでありまして、若し之を完全に遮斷した場合には國家の經濟は窒息しなければならぬ。詰り國際經濟と國內經濟との關係が今日迄は自由放任であつたものを、今度は國家の意思に於て之を行ふといふことに變更する。さうい

ふ意味に於ける所の貿易國營といふことになりす。併ながら勿論貿易の國營といふことは役人がやるといふ意味ぢやない。現在の貿易も殆ど五六軒の貿易商が獨占して居る。輸入の大部分は總て其手を経てやつて居るのであるから、それ等を統制して行く。或は國家の方針に隨て貿易をやらして行けば宜い。貿易といふものは海外に於ける相當の操作が必要でありますから、到底是は役人には出来ない仕事である。それは適當な方法もある。併ながら貿易といふものは個人の機能ではありませぬ、國家自身に具足した機能であるといふことに定義を變更する必要がある。それでなければ國內の物價騰貴に依る所の社會不安を處理して行くことは出来ないと思ふのであります。是は既に獨逸ではやつて居るやうです。獨逸では何か爲替清算協定といふやうなものがある。是は貿易銀行といふやうなものがあつて、それをやつて居るやうです。で例へば外國に品物を賣る、尤も國家とし大事な必要物は賣れない。賣つても宜い物でなければ賣れない。賣つても自分が直接代金は取らない。其輸出をした輸出商人には金は來ない。貿易銀行みたいなものがあつて、それが向ふの金で取る。さうして其獨逸の輸出商人は今度は其貿易銀行から向ふの金でなしに、自國のマルクで代金を取る。それから外國から物を買ふ場合はどうするかといひますと、是も自分が直接外國へ其輸入品の代金を拂ふのではない。先づそれだけの代金をマルクで貿易銀行に納める。さうすると貿易銀行は向ふから受取勘定もあるか

ら、それ等と振合はして清算をしてやる。詰り貿易取引と國內取引を分けて居るのであります。早い話が國際貿易上の貨幣と國內で流通する所の貨幣とを全然別個のものにするといふことにならぬですが、是は決して實行不可能の事ではなく、獨逸では既にやつて居る。言換へますると、色々違つた表現の方法はありますが、簡単に言へば圓爲替の騰落に依つて内地の物價が攪亂されるのを防ぐ爲に、圓爲替を廢止する。さうして相手國の貨幣で貿易をやる。それにはどうしても貿易を國有にしなければならぬ。否應なしにさういふ結論になつて來る。吾々は國家の爲に必要な政策を行はんが爲にやるのである。此物價問題を解決するにはどうしても一面に於ては爲替の問題をさういふ風にしなければならぬ。是は既に前例が獨逸にありますので、もう議論の餘地はないと思ひます。

それからもう一つは國內に於ける所の資源の開發であります。生産といふことは、勿論利潤を伴はなければ企業は起らない。誰も損をして商賣をする人はありやしない。けれども、それでは現在の儘に放つて置いて宜いかとなると、さうではない。例へば鐵などは掘れば幾らもあるさうです。内地には金もある。伊豆半島などは殆ど全部金だといふことです。さういふ話は非常に大きいが、唯含有量が少ないので探つたつて引合はぬからやらぬ。けれども有るには有る。さうなれば今度は物價問題を解決する一つの手段として、採算拔の企業を行ふことにす

る。資源もあれば、勞力もあり、技術もある國が、而も物を作らないで困つて居るといふことは大馬鹿三太郎の話だ。唯企業は利潤を伴はないと起らないから、そこで利潤を伴はなくても生産を起し得るやうな制度を考へれば宜い。さうして採算抜の生産を行ふ。是は實際問題としては非常に難しい問題です。けれども是は只今の圓爲替を廢止するといふことに依つて可能になつて来る。現在の儘では若し國內に於て採算抜の企業がどんく起つて来ると、いづれ國家財政の負擔が増すか又は貸付が固定するかで、それと共に圓爲替は下がるから、それはやれない。併し若し國內經濟が國際經濟と別個の關係になつて来て、國內經濟が独自の立場を執ることが出来るやうになれば、國の内では其企業毎に採算が取れなくても生産を起し得る方法が當然取れる。例へば國家の爲に必要な物であれば、現在の方法では生産原價が是だけ掛つて、それをカバーする値段では、どうしても賣れない。随つて企業が成立たないといふ物に對しては、政府が之を買上げてやる。政府が公共團體が其採算の採れる値段で買つてやれば宜い。さうするとそれだけの差額は政府の負擔になるけれども、是は國家全體から考へれば流通通貨の量の問題に歸着して来る。尤もさう飛躍して言ふと分りにくいかも知れませぬが、早い話が相當の値段で買上げても宜いし補助金をやつても宜い。さういふ採算抜の企業を起す爲に補助金を與へるとすると、要するにそれだけ政府が餘計に金が要るから紙幣を餘計出すといふ結果になる

が、さうすれば其商賣は採算が取れてやつて行けるやうになる。併ながらそれは現在のやうに圓爲替があつて、國內經濟が國際經濟に依存して居る形に於ては、さういふことはやれませぬ。やれば圓爲替が暴落して經濟恐慌が起る。所が國際經濟と國內經濟とが遮断されて居る場合には問題は其發行された紙幣の數量と生産された商品との割合の問題になつて了ふ。詰り流通して居る紙幣の數量と生産せられたる商品の數量とがバランスが取れれば全體としては一向差支へない。餘計紙幣を出した場合にはそれだけ物價が上がれば宜い。其計算は十分出来る筈である。現在それが出来ないのは内地で以てさういふやうな採算抜の企業をどんく起した場合に、是は非常なインフレーションになつて了つて、爲替が暴落して外國から原料を買ふにも買へなくなつて了ふ。さういふ關係で行詰つて来るから、それに依つて又物價が高騰する。さういふやうな相關關係がある爲に、現在の儘では採算抜の企業を起すことは出来ない。併ながら圓爲替を廢止することに依り貿易を國營にすることに依つて、國內經濟と國際經濟の間を調節して了へば、今度は採算抜の企業を獎勵することが出来る。さうすれば内地、朝鮮、臺灣は固より滿洲等の勢力範圍に於ける所の有ゆる物資を開發することが出来ると思ふ。さうして其最後の決算はどうかといふと、出した紙幣の數量と生産された商品の數量との脱合ひが付けば問題はなくなつて了ふ。是は素人考でも十分出来るし現に獨逸では出來て居る。だからあのやう

な全然包圍されたやうな形でも、どん／＼立派な物が出来て居るといふやうな状態である。之を端的に言へば國體經濟である。元來國家は權力と土地と人民があれば出来る。さうして國家といふものは一つの特定の機關であつて、人民はそれに依つて支配される關係にあるといふやうな歐羅巴式の國家觀念で行くと、經濟といふものは國家にはない。國家には財政があるだけである。併ながらさうでなく山川草木悉く是れ國家である。國體であるといふことの自覺から願れば、國內に起こる有ゆる經濟現象は國家の經濟である。國體の生理現象としての經濟である。國家經濟といつても宜い。さういふ觀念、さういふ定義の下に駈り經濟を立てれば、丁度今迄はばらばらであつたものが國家を主體として纏つて、自己の意思に依つて經濟を立て得る。さういふことになつて來れば此經濟問題の根本は解決出来ると思ふ。資本主義はどうなるか、分配の問題はどうなるか、そんなことは末の問題である。本當の意味に於て生産を興すことが出来れば、失業者は無くなつて了ふ、分配の問題は勿論考へなければなりません。要するにそれはもう常識であつて、さうなつて來れば幾らでも方法がある。非常にらくになるんです。それが日本主義の方面に於て考へて居る所の經濟學の基本原則であります。ですから問題は企業の形態と貿易の問題、貨幣制度の問題、是だけです。私有財産及び所有權の問題、是等に對しては固よりはつきりした考を持つて居りますが、是は大したものではないと思ふ。國體原理

から言へば有ゆる所有といふもの、個人の所有といふものはない、自己の個體も國體の一分子であつて、始から絶對の所有權といふものはあり得るものではない。本當から言へば吾々には使用權があるだけであります。是はまだ細かい點に於て色々研究して居る方もあるやうですが、是は緩つくりやつて差支へない問題であつて、根本問題として一舉に解決しなければならぬ問題は、爲替の問題と貿易の問題、貨幣制度の問題であつて、企業形態の問題、生産力擴充といふ問題は、それに依つてのみ可能であつて、其外の方法では十分出来ないと思ふのであります。

一、労働運動に對する私見

それから労働運動に對する私の考を申上げて見たいと思ひます。今日まで色々労働組合がありますが、是は要するに階級闘争といふイデオロギの下に出来た即ち賃銀であるとか其他雇傭條件の改善問題、さういつたやうな意味の組合なんです。そこで本當の日本主義としての労働運動とはどういふものであるかといふと、私はそれに對する一つの意見として、斯う思つて居るんです。階級闘争的組合は一切認めないといふのが本當であらうと思ふ。是は此前もお話しましたが、總ての企業形態といふものは現在では資本が主體である。株主が主體である。即ち株主總會が有ゆる企業の主體となつて、社長、重役も選出する。又其他の一般従業員は悉く使

用人である。彼等は一枚の端書で鹹になつて了ふ一個の使用人に過ぎない。何等其處に勤勞者としての法制上の立場がない。そこに根本的の缺陷があると思ふ。雇傭條件の改善といふやうなことは極く末節の問題であつて、さういふ問題の前に勤勞者としての價值が認められて居ない。詰り現在は資本が企業の主體で、勤勞は從屬したものとなつて居る。本來から言へば資本は物質であつて、勤勞は人間ですから人間が主體になつて、資本は從屬したものでなければならぬ筈だと思ふ。隨て企業の主體は勤勞でなければならぬ。さういふ意見を持つて居るのであります。之を具體的に申しますれば、社長を首め社員、勞働者、全従業員が打つて一丸となつて、一つの勤勞團體として之を法制化する必要がある。さうして勤勞團體といふものに一つの法制上の根據を與へる。而して勤勞團體が企業の主體となり資本は寧ろ勤勞團體に從屬するものとならなければならぬ。今のやうに一つの企業の中に資本を代表して居る人間と、それに使用される所の一般従業員といふものが對立して居るといふことが、抑といけないのであります。本當の意味の日本の家族制度、日本の協同體主義から言へば、社長、社員、勞働者悉く打つて一丸となつて、企業經營上の責任を負ふのが當然だと思ふのであります。さうした場合に資本はどうなるか、資本は機關を別に作れば宜い。詰り資本を提供する機關を作つて、資本自身は經營に参加しない。資本は資本としての働きだけすれば宜い。即ちさういつた勤勞團體が

法制化されて、それが企業の主體となつた場合には資本を使用する。さうして其資本の使用料を支拂へば宜い。是は國家計畫經濟から割出せば、どれだけの使用料を拂へば宜いかといふことは計算が出て来る。でありますから所謂日本主義勤勞運動、或は勤勞運動としては、尠くとも勤勞者の企業参加といふことがモットーになるべきだと思ふ。

もう一つは勤勞團體の法制化ですが、所謂サラリーマンといふ者は月給を貰つて居るから、始終鹹の心配をするから弱いが、さうでなくして勤勞者といふものが自ら一つの法制上の立場を取つて行くならば、そんなふらふらしたものでなくなる。それに依つて初めて本當の意味の國民の中堅に安定を與へることが出来ると思ふ。ですからどうしても是は勤務が企業の主體にならなければならぬ。さうして其主體になつた場合には、經營が悪くて損をすればお互に報酬を減らさなければならぬ。又若し利益があれば勤勞に對して配當を貰ふ。資本に對しては一定の使用料を拂へば宜い。此資本に對する使用料は第二の生産設備の再生産の資本として蓄積されるものですから、其資本に對する使用料は當然拂はなければならぬ。大體さういふ考を持つて居ります。

でありますから日本主義に於ける勤勞運動といふものは、或は勤勞運動といふものは、勤勞者の企業参加といふ意味に於て、一つの企業内に於ては社長首め従業員全部が打つて一丸とな

ることが大事である。そこで産業別の勤勞團體を作る。郵船會社なら郵船會社の内部に於て一つの團體を作る。さうして資本家といふ立場のものを引下ろす。例へば重役の中でも専務で働いて居る人がある。是は資本家の代表でない。殊に最近のやうに金融財閥が發展して來ると、如何なる企業でも會社でも其重役社長といつても、大きな金融支配の或はコンツェルンの使用人に過ぎない。決して彼等は資本の代表者ではない、資本の使用人である。現在澤山の會社があるけれども、それは皆大きな五つか六つの財閥の使用人に過ぎない。其點に於てはそれ等の會社の社長や重役も亦外の一一般の社員や勞働者と同じ立場にある。財閥のお氣に召さなければやはり醜になつて了ふ。さういふ意味からいつても、勤勞者——企業の従業員は全部が打つて一丸となつて、勤勞團體を作つて、さうして其勤勞團體としての立場から企業参加を要求して宜いと思ふ。日本主義勤勞運動はそこに法制化される。詰り將來は勤勞が企業經營の主體になる。さういふ風に考へて居ります。隨て勤勞運動も其線に沿うて行くべきものと解釋して居ります。であるから今迄の勤勞組合は全部日本主義に改組して、産業別に一つの會社を全部打つて一丸とした従業員組合を作る。さうして將來は其勤勞團體を法制化して、それに法律的基础を與へる。それから勤勞團體内部の定款を作る方法を考へる。例へば重役や社長、社員、一般従業員各々の立場に在る人の其企業に對する責任分擔の率、割合、色々の場合のことを規定す

る。詰り勤勞團體法といふやうなものを作つて、それを企業經營の標準にするといふ考へ方が一番良いと思ふ。私共は勤勞運動に對しては、さういふ考へ方をして、さういふ風に發展させなければならぬと考へて、其方に動いて居るのであります。ですから海員組合とか其他の組合に對しても、先づ組合の編成替をやる必要があると考へて居ります。

纏らぬお話を致しましたが、大體此邊で終りと致します。(拍手)

〔終り〕

昭和十二年八月四日印刷
昭和十二年八月九日發行

非賣品

發行兼編輯人 辻

信 一
東京市芝區新橋二丁目三〇番地

印刷人 松井方利

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷所 東京印刷株式會社

東京市深川區白河町四丁目一番地一

發行所 明會本部

東京市芝區新橋二ノ三〇 中和ビル
電話銀座(57) 一八五番 五〇一一番
振替口座東京一三八四七八番

374
447

終

